

祝 辞

成人式を迎えられました皆さん、おめでとうございませう。心からお祝いを申し上げます。

今日の成人式を機会に二つの事については是非考えていただければと思います。

一つ目は、『命の大切さについて』です。

今年七月だけでも、十三日、小田原市で二十六歳の息子が四十六歳の母を殺害、十五日、日立市で二十歳の孫が、六十六歳の祖父を殺害、十八日には、京都で、ガソリン放火により三十五名が犠牲となった殺人事件等、おごい事件が続きましたし、けがれの無い子供達が虐待で殺害される悲しい事件等も毎日のように報道されております。

高齢者の虐待、生活苦、中高校生のいじめに耐えられない等のケースで、自らの命を絶つと言う

悲しい状況も報道されております。

要因は、単純ではないと思いますが、命を軽んじる行動は、あまりにも短絡的過ぎると思います。

人生は教科書どおりにならないことのほうが多いのですが、若い頃の失敗は学ぶことが多く、逆に後々のための、貴重な体験となります。

若い皆さんには厳しい情勢の中、難題に直面する事も多いでしょうが、現実から逃避し安易な行動を取ることなく、問題としっかり向き合う勇気と気概を持って欲しいと思います。

先人が、多くの困難を乗り越え、願いを込めて、受け継がれてきた命、自分だけで生きてきているのではなく、両親・家族・友人など多くの繋がりの中で生かされている命の大切さを、今日、もう一度考えていただきたいと思います。

二つ目は、『戦争と平和について』です。

明日十五日は、第二次世界大戦の終戦記念日です。海外戦没者二百四十万人。戦後七十四年、半数近くの遺骨は、未だに家族の元へ帰ることなく不明となっており、心の痛みを消し去る事が出来ず、「決して戦争を許してはならない」と言う思いを新たにいたします。

良い戦争・正しい戦争などありません。

破壊・暴力・殺戮を繰り返し、子供や老人など罪もない弱者を犠牲にする戦争。

片寄った愛国心による戦争の代償、取り返しのつかない犠牲は大きすぎます。

広島市の平和祈念式典が行われる平和記念公園の慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」と刻まれております。「核兵器は二度と使わない。使わせない」との誓いは、核廃絶・平和運動の原点だとされております。

「核兵器禁止条約」が国連交渉会議で採択されて二年が過ぎました。

電撃的な米朝首脳会談が実現しましたが、朝鮮半島の非核化に向けての交渉は予想通り難航しておりますし、残念ながら、アメリカ・ソ連・イギリス・中国などの核保有国、核の傘の元、国の安全保障が確保されているとする、日本・ドイツ・韓国などは、依然として核兵器禁止条約批准への行動を批判、拒絶、無視し続け、政治的な圧力で妨害する国も見受けられると言います。

唯一の被爆国である日本が、何故賛同しないのか、疑問の声も多くありますし、広島・長崎両市の今年の平和宣言でも、一刻も早く核兵器禁止条約を批准し、憲法の平和主義を体現するためにも、核兵器のない世界の実現に一步踏み込んでリーダーシップを発揮することを求めています。

未だ世界には人類を滅亡させ得る約一万五千発もの核兵器が存在し、多くの犠牲を払った無念の叫びもむなしく、罪無き子ども達、市民を巻き込
む戦火も止む事無く今なお続いております。

人種、宗教、文化、思想、経済等々あらゆる点で違いを認め合い、互いに尊重しあいながら、意思の疎通ができる、平和な世界を目指す事をあらためて強く意識しなければなりません。

成人となるこの日に、どうか、皆さんの目線で『戦争と平和について』も考えていただきたいと思えます。

長い歴史に培われてきた、ふるさと福島町には、生まれ育ったこの町を共有でき、皆さんのわがまを聞き、いつでもやさしく迎え、癒してくれる家族や友人、そして、地域の人達がおります。

町外で活躍の皆さんには、八月のお盆と正月ぐ

らい福島に帰って、ゆっくり休んでリフレッシュしていただきたいと思います。そして、若い皆さんの新しい、豊かな感性で、いろいろな地域で、多くの視点で学んだ情報を寄せていただければと思います。

本日の成人式を契機に、無限の可能性を秘めた皆さんが、夢と希望をもって果敢に挑戦、大いに喜び、大いに怒り、大いに哀しみ、大いに楽しみ、多くの感動を体験し、自分自身の青春時代を悔いなく燃烧させ、大きく羽ばたく事を心からご祈念致しましてお祝いの言葉と致します。

令和元年八月十四日

福島町議会

議長 溝部 幸基